

市町村合併を契機とした住民自治組織における組織変化の要因分析

— 社会ネットワーク論における「埋め込み」アプローチの適用 —

京都大学大学院農学研究科 萩原和 星野敏 橋本禪 九鬼康彰

はじめに

平成の大合併は、広域化による行政サービスの多様化や高度化を目的に多くの市町村で実施



一方で旧町村で取り込まれてきた独自の地域づくりを継承するため行政主導により住民自治組織の新設や再編が行われているもののであがった組織の形態はさまざま。

本研究では、旧町村の枠組みを新たな仕組みに再編しようとする事例において、既存の地縁組織と住民自治組織の組織間の関係に注目し、どのような要因が組織変化に影響するかを明らかにする。

対象地域

対象地域である恵那市は旧恵那市及び旧恵那郡の周辺5町村が新設合併してできた自治体であり岐阜県東濃地方に所在する。人口は55,512人19,149世帯（平成22年2月時点）であり減少傾向にある。名古屋圏との繋がりが強く旧恵那市の頃よりベッドタウン化する一方で合併後旧5町村を中心に、多くの中山間地域を抱え過疎化が進行しつつある。



聞き取り

まずヒアリング調査は恵那市企画課まちづくり推進課のプレヒアリングから、地域自治体設定後、地域づくりの実行主体として機能しているまちづくり実行組織事務局に対して行うことが適当であると判断した。結果的に右表のような関係者・団体に対して聞き取りを行った。

【調査対象】

- I 振興事務所振興課（実施日：平成22年1月25日）
- Y 地域における地縁型NPO事務局（実施日：平成21年11月4日）
- A 振興事務所振興課（実施日：平成22年1月26日）
- ※ A 地域のまちづくり実行組織のメンバーが同行
- Ku 振興事務所住民課（実施日：平成22年1月26日）
- Ka 振興事務所住民課（実施日：平成22年1月25日）

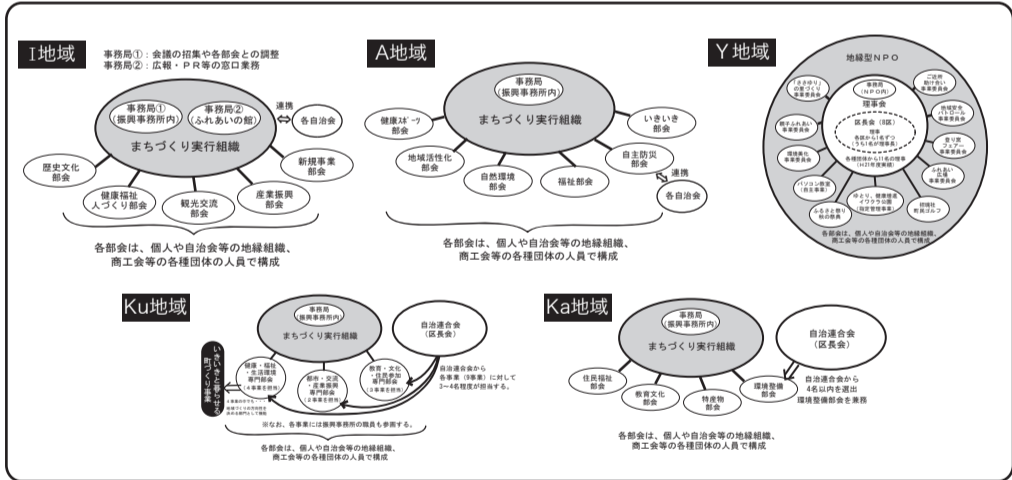
【調査方法】

地域振興事務所の職員（Y 地域の場合はNPO事務局）に対して対面聞き取り

【調査項目】

地域活動の現状、地縁組織とその他団体との関係、地域づくりの人材確保に関する対処方法などについて質問

旧5町村におけるまちづくり実行組織の組織構造は以下のとおりとなった。



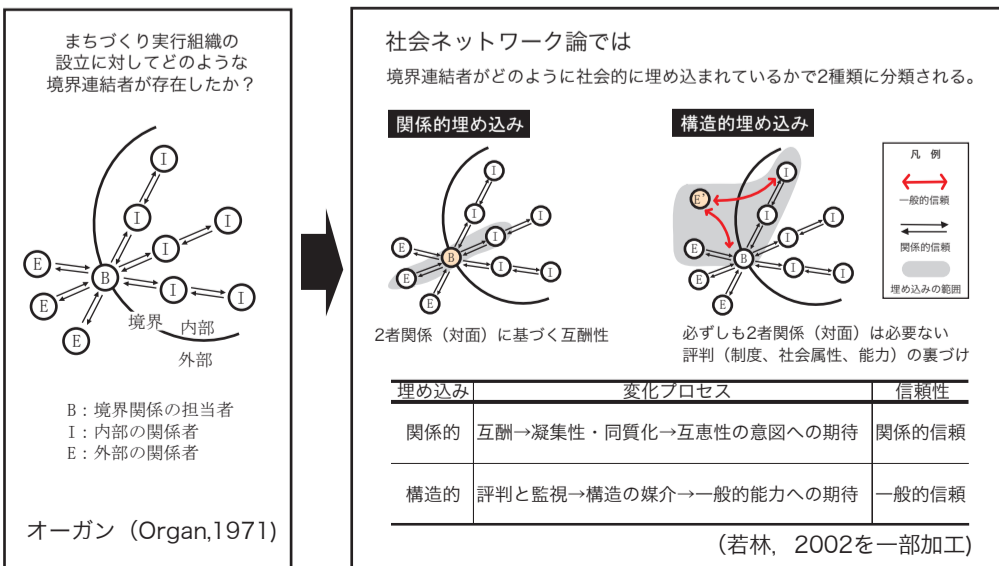
合併前後で旧町村の枠組みがどのように変化？

分析

旧町村の枠組みが残るか否かは、まちづくり実行組織と自治連合会との組織間連結の違いによるのではないかと

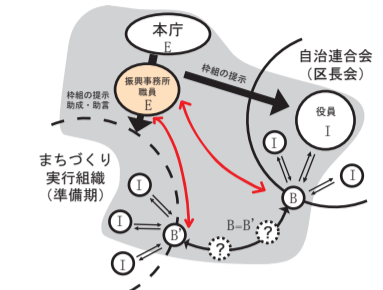
そこで、

社会ネットワーク論における「埋め込み」アプローチから境界連結者を分析

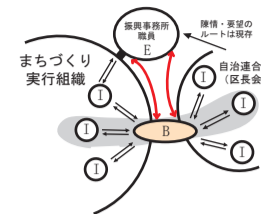


結果

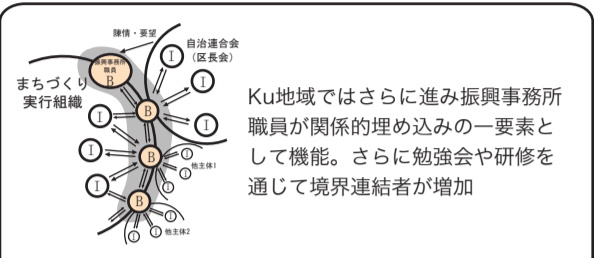
Ku・Ka地域の場合



振興事務所職員による信頼（特に調整能力）に基づき境界連結部分に構造的埋め込みがなされる。（境界連結者の自覚は弱い）



構造的埋め込みを通じて組織間の関係の埋め込みの強化がなされる段階

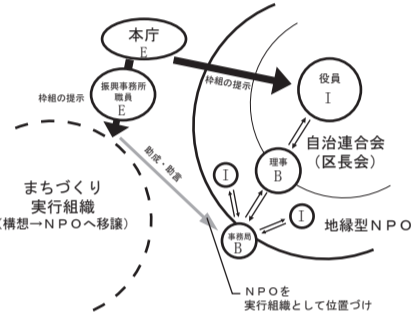


Ku地域ではさらに進み振興事務所職員が関係の埋め込みの一要素として機能。さらに勉強会や研修を通じて境界連結者が増加

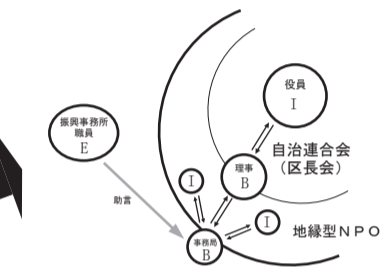
（構造的埋め込みを呼び水としたドラスティックな組織変化）

構造的埋め込み ↔ 関係的埋め込み
（一般的信頼と関係的信頼の共存）

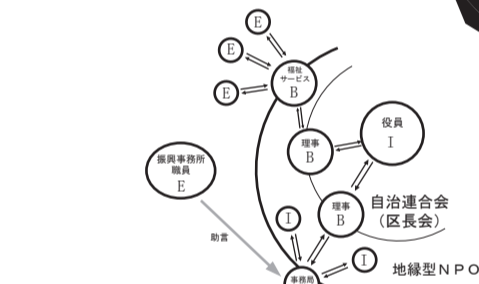
Y地域の場合



まちづくり実行組織の枠組みをどうするか
新市と自治連合会（区長会）の調整段階



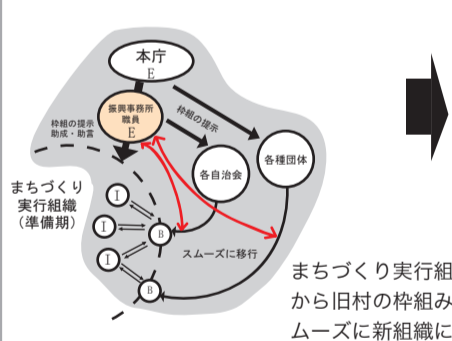
旧町の頃より続くNPO組織が実行組織として位置づけられNPO事務局が境界連結者として機能（振興事務所職員による構造的埋め込みはなされない）



NPOという枠組みを使い自治連合会（区長会）のリーダーシップの下での事業創出（既存組織の特性を色濃く残した閉じられた組織）

関係的埋め込み > 構造的埋め込み
（一般的信頼を高めることが課題）

I・A地域の場合



まちづくり実行組織立ち上げ以前から旧町村の枠組みが弱く比較的スムーズに新組織に合流

関係的埋め込み < 構造的埋め込み
（関係的信頼を高めることが課題）

まとめ

社会ネットワーク論における「埋め込み」アプローチを適用することにより、既存の地縁型組織（既存組織）と新たな住民自治組織との間にどのような関係が生まれるのかについて検証した。

既存組織の社会的特性が境界連結者（この場合は主として振興事務所職員）の「埋め込み」の状態（構造的/関係的）を規定し、さらにそれがその後の組織変化の態様を大きく左右することが明らかとなった。Ku・Ka地域の場合には、構造的埋め込みが関係的埋め込みを誘発させ、新たな境界連結を可能とし、新旧の組織が融合した新組織が生まれていることが推察できた。また、関係的埋め込みが強いY地域では、既存組織の特性を色濃く残した「閉鎖的」な組織が生まれ、逆に構造的埋め込みが強いI・A地域では、既存組織が比較的スムーズに新組織に置き換わったものの、組織の凝集性がやや低いことが推察された。

今後の課題として構造的埋め込みをどのように発展させ、境界連結を増やし組織を活性化していくかの手法検討が必要である。

